



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# ミサ聖祭は神との出会いの場

## 司祭大会でソットコロノラ神父が熱弁

今年の司祭大会が一月二十七日(月)から三十日(木)まで市比野の「ホテルグリーンヒル」を会場に開催された。年に一回、教区で働く修道会司祭と教区司祭が一堂に会し講話を聞き、懇親を深める機会にもなっている。今年の参加者は三十二人だった。



ソットコロノラ神父

りも聖体の両形態のもとに現存しておられるのである。」について詳しい解説がされた。講話の熱のこもった講話から「ミサにおいて司祭は常に自らのうちにキリスト

## 教区財政正常化献金は今年度で終了

### 経済問題評議会で再確認

臨時経済問題評議会が一月二十六日(日)午後、教区本部で開催された。議題は①「教区財政正常化献金」について、②二〇一三年度の緊急支出について、③二〇一四年度の主な支出について、④教区会計に課せられる優先課題についての四つだった。

## テーマは「みことばを生きる」

### 参加者募集 中高生の長崎巡礼

教区青少年担当では、恒例の春の中高生巡礼を以下のように決定し、現在参加者を募集している。今回のテーマは「みことば(信仰)を生きる」で、訪問先は長崎。巡礼は三月三十一日(月)から四月二日(水)までの二泊三日。対象は中高生で、四月から中学校入学予定の新一年生も出席可能としている。参加費は一万五千円で、離島からの申込者に関しては離

## 人事

- ▼ 郡山司教は四月一日付けで教区司祭の異動を次のように発表した。
- ▼ 竹山昭神父(紫原教会主任)は、ザビエル教会主任司祭
- ▼ P・アン神父(ザビエル教会主任)は、同教会助任司祭及び事務局長補佐、聖血礼拝会聴罪司祭、召命担当
- ▼ アントニオ鄭法鐘神父(ザビエル教会助任)は、種子島教会主任
- ▼ 鈴木康由神父(種子島教会主任)は、吉野教会主任及び同付属幼稚園園長
- ▼ 牧山田一神父(吉野教会主任)は、阿久根教会主任司祭
- ▼ 寝占敦之神父(教区本部・玉里教会管理者)は、紫原教会主任司祭、事務局長及び会計部長兼務
- ▼ 小隈憲士神父(鹿屋教会主任)は、玉里教会主任
- ▼ 丸野六雄神父(研修の家・ザビエル教会協力司祭)は、垂水教会主任
- ▼ ドミンゴ宋診旭神父(鴨池教会助任)は、鹿屋教会主任
- ▼ 泉浩二神父(鴨池教会主任)は現職のまま広報部長、典礼委員会委員長、召命委員会委員長兼務

主任)は、玉里教会主任丸野六雄神父(研修の家・ザビエル教会協力司祭)は、垂水教会主任ドミンゴ宋診旭神父(鴨池教会助任)は、鹿屋教会主任泉浩二神父(鴨池教会主任)は現職のまま広報部長、典礼委員会委員長、召命委員会委員長兼務

## 6日からアルファコース ザビエル教会

顧問会で、特例として屋久島教会の修繕は教区本部で行うことが承認されており、教区経済問題評議会で最終的に確認され承認された。(報告・寝占敦之)

いた「教区財政正常化献金」分を各小教区の維持費に加えて納入する。その際、少しでも増額して各小教区に納入する。この三方法が示されたが、あくまでも目標は(2)の「各自が収入の三割を目標に定め教会維持費を納める」ことを経済問題評議会は強調している。

因みに二〇一二年度の教区会計の決算額の中から人件費だけで四千二百萬円の支出があり、それを支える教区費(千八百萬円)と司祭寄付金(千五百萬円)の合計は三千三百萬円で、人件費さえ賄うことができていない現状。それを補う形で「教区財政正常化献金」を実施してきたところ毎年、約九百萬円が教区会計に納められてきたことを明記しておきたい。

今回のコースも、「キリスト教とは」(三月六日)に始まり、六月十二日の「人生を最高に生きるには」まで全十三回(四月十七日と五月一日は休講)の内容で、毎週木曜日午前十時から午後一時までザビエル教会一階ホールで開かれる。申込及び問合せはザビエル教会(☎〇九九二二二一三四〇八)あるいは柳正子さん(☎〇九九二二五六一三〇九〇 携帯〇九〇一四五八七二一八七)まで。



熱心に学習する司祭たち

今年の大大会で講師を務めたのは熊本の真命山で働いている聖ザベリオ宣教会のフランコ・ソットコロノラ神父。テーマは「神秘体験としての典礼」で、ミサを司式する司祭の心を問うものだった。

時に大きな手振りや内容の重大さを強調する講師の話「ミサをささげる際、キリストは司式する司祭の中に特別な形で現存する。だからこそ司祭はキリストを現存者でなければならな

い」に多くの司祭が感銘を受けていた。主に使用されたテキストは典礼憲章の第一章と第二章だった。特に第一章の「典礼におけるキリストの現存」の項では「これほど偉大なわざをなし遂げるため、キリストはつねにご自分の教会とともにあり、とくに典礼行為のうちにおられる。キリストはミサのいけにえのうち現存しておられる。『かつて十字架上でご自身をおささげになった同じキリストが、今、司祭たちの奉仕職を通してお奉げになる者として』奉仕者自身のように現存されるところに、また何よ

最初の議題①「教区財政正常化献金」については、二〇一二年九月開催の経済問題評議会において二〇一三年度終了時の廃止が決定されていたが、教区の財政を左右する重大な問題であったことから、会計担当司祭が正常化献金分の維持費への移行の進捗状況について各小教区へアンケートを実施(昨年十一月)し、その結果から廃止か、継続かを再検討しようとしたも。様々な意見が出された

教区司祭大会で感じたこと

世界的視野を身につけましょう！

大口教会主任司祭 マックス・アッシュャー



鹿兒島の国連

一月二十七日（月）から三十日（木）まで、鹿兒島教区司祭大会が開かれました。そしてこの大会に揃った顔ぶれは、日本人、ドイツ人、イタリヤ人、フィン人、ベトナム人、韓国人と六カ国からの神父たち。この国際色豊かな大会を私は「鹿兒島の国連」と名づけました。

というのも中学時代、私は故国ドイツの故郷の教会にある青年の家に、インドと中国から二人の司祭が来ていたことを思い出したからです。私はこのときに神の家族の素晴らしさを体験したのでした。

教皇ヨハネ六世は「神はバラバラになっていく人類を神の家族にまとめるためにイエスを遣わして、教会をつくった」と言われました。私が司祭大会を「国連」としたのは、教会のように精神的なつながりが人類になければ、国連の仕事もあり実らず、まさにこの大会こそが実りをもたらすものだと思うからです。

アジアからの司祭たち

日本において、そして鹿兒島でも西洋からの宣教師たちがイエスさまの教会を広げてきました。そして今、地元の司祭たちがその実り

として誕生して働くようになって、教会の未来は保証されていると思えるのです。でもまだ数が十分ではないということ、アジアの国々から司祭がやって来て教会を建てる時代になったのは素晴らしいことです。こんな教会の姿は、多様性をもたらす、皆の視野を広げ、生き生きとした教会をつくることでしょう。

広い視野を

視野と言えば、私たちは神学生の頃から「布教のために祈るミサ」というものをささげてきました。それはとても有意義なものでした。でも日本では公会議の後に出版されたミサ典書に、そのミサが載せられておらず驚きました。それは日本では布教のことを意識していない、と感じたから

です。お隣りとは言え、アジアの各地から来られている神父さまたちも様々な故郷での悩みを持っています。韓国からの神父さまたちは、北朝鮮で苦しんでいる同じ民族、特にキリスト信者に對するひどい弾圧に苦しんでいる人々のことが忘れられないでしょう。

ベトナムからの神父様たちは同じように迫害されている故郷の教会への悩みを持っておられるでしょう。フィリピン人の神父様たちは、母国がキリスト教の伝統を持つているにもかかわらず、社会正義を忘れた教会の欠点を体験しておられます。

私は彼らと彼らの国の兄弟たちのために祈ることをわすれないようにと願っています。

四十年ほど前のことになりましたが、ロシアの信者さんが次のように言われました。「迫害の苦しみより辛いのは、自由の国々の信者たちから忘れられていること」

私はこの言葉の重さを今でも感じています。

識別する力を

また典例についてもいろいろ実っていくよう希望しています。

ベネディクト十四世は一七四二年に、布教においてあらゆる文化に對する適応を固く禁じました。アジアの教会には大変な打撃となりましたが、今の時代は自由が与えられています。

しかし、「自由」には気をつけなければなりません。自由から起こった祈りのいろいろなやり方と種類の中には、もちろんいいものもありますが、極端なもの、真似するのは少し考えた方がよいのではないかと

す。もう少し、自分で考える能力を備えるべきだと思います。それは靈的花束についても言えます。

教皇フランシスコは何千ものロザリオの約束が記されたリストを渡されて、「どうして簡単に『あなたのために祈ります』と答えないのか」と答えたと言っています。ロザリオの祈りの解説にこそ細かく意向が書いてあるのを見ますと、私はイエスさまも欠伸をされているのではと思わされます。

もつと世界的な視野をもつて世界の平和、戦争や自然災害に苦しんでいる人々のこと、世界中の飢え死にしようとする人々のこと、信仰のために迫害されている人々のことなど、もつともつと多くのことのために祈ることがキリスト教信者の中心であって欲しいと思います。そうしたら「鹿兒島の国連」の働きはもつと大きな実を結ぶでしょう。



イエス様の言葉にも現代に生きる私たちの常識では理解できないようなものが時々見られます。その一例として「人は皆、火で塩味を付けられる。塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によつて塩に味を付けるのか」という言葉が挙げられます（マルコ9・49・50）。火で塩味を付けることはありませんし、「塩に塩気がなくなる」と聞いても今の私たちにはよく分かりません。それは私たちが使っている塩とイエス様が言われる塩とは違うからです。

鈴木神父のやさしいみことば

聖書の中の「塩味」を巡って

イエス様の時代には三種の塩があったと言われています。まず、金持ちが買う死海沿岸にうちあげられたものを精製した塩です。次に、中流階級の人々が買う採掘された岩塩です。最後に、貧しい人々が買う露天掘りによる泥塩（塩を含んだ泥の固まり）です。このことから、イエス様が語る「塩」とは貧しい人が買う泥塩のことだと思われまます。これは泥の固まりを水に溶かして土などを取り除いてから、煮詰め

て塩分を結晶化させて塩として使います。このため残った土（泥）は塩分が抜けていることから捨てるしかないのです。このことを踏まえると、イエス様は土（泥）を煮込んだとしても、どうやってこの土（泥）に塩分を付けるのか、ということを問うているのだと思われまます。では、「火で塩味を付けられる」とはどういうことでしょうか。ここでは「火」が精錬の象徴として捉えられていると考えられます（イザヤ48・10）。火は泥塩交じりの水から塩を結晶化させるものであり、その周りに付着するものを除去する働きをします。そこから、「良いもの」を精錬するたとえとして使ったのでしよう。

さて、古代イスラエルでは塩を友情と契約のしるしとしても用いていました（民数記18・19参照）。このことから、「自分自身のうちに塩を持ちなさい」とはイエス様や仲間との兄弟的一致を保つことの比喩だったのかもしれない（マルコ9・50）。つまり、良いもの、即ち、神様への信仰と福音を信じる信仰を分かち合いなさい、という意味だったのかもしれない。

カトリック通信講座のご案内

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。

神・発見の手引

私たちに常に呼びかけている神について、人生、自然などの具体例や哲学者の言葉を通して考えます。全15講 受講料 4500円

生きること・死ぬこと

現代社会の状況のなかで、「いのち」について考えます。健康と病気、産むこと、老いることなど。全10講 受講料 5000円 \*他の講座については、ホームページをご参照ください。

<お申込み方法>

郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名をご記入の上、受講料を下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。

振替口座番号：00170-2-84745 加入者名：オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ・お申し込み>

オリエンズ宗教研究所「カトリック通信講座」 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL: 03 (3322) 7601 FAX: 03 (3325) 5322 URL: http://www.oriens.or.jp 携帯: http://www.oriens.or.jp/mobile/

\*ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。

こどもたちとともに主日の福音を

『こじか』2014年度のご案内

こどもたちに福音を味わう1週間を！ わかりやすいと好評の主日の福音解説を中心に、多彩な記事で子どもたちにイエスさまのまなざしを伝える「こじか」。どこへでも1部からお届けいたします。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしてもご好評いただいています。

毎週日曜日発行（年44週）B5判・16頁（ふりがなつき） 定価65円+税（送料別）\*15部以上のご注文は55円+税 国内年間定期購読（年44週分） 1部4100円/2部7400円（税・送料込。2部の価格は同じ発送先の場合）

お申し込み、お問い合わせ、見本誌請求は下記にどうぞ オリエンズ宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 電話：03-3322-7601 Fax：03-3325-5322 http://www.oriens.or.jp/



# キリシタンの歴史② 近代日本とキリスト教の形成

溝辺教会主任司祭 坂本 進

## 一 禁教令解禁後のキリスト教の流れ

人間と神さまとの関わり、そのきつかけは、いろいろあり、ひよんなことから、縁が結ばれることがありませぬ。キリスト教禁教令が解禁されてから(一八七三〇明治六年)の、日本のキリスト教の展開は、まさに、いろいろなきつかけ、縁を通して、神さまのみわざが働いておられることを知らせる証の時、恵みの時であったと言えるのではないのでしょうか。そこには、不思議な神さまのみわざが働いていたように思います。

## 二 プロテスタント教会の系譜

禁教令解禁後のキリスト教会の系譜は、前号でも紹介しましたようにクラーク博士(牧師)の流れをくむ内村鑑三(一八六一〜一九三〇)、新渡戸稲造(一八六二〜一九三三)らに代表される札幌バンド(団体)、幕末の卓越した思想家・政治家であった横井小楠(一八六〇〜六九 暗殺)の息子横井時雄(同志社大総長)、海老名弾正らの熊本バンド、ヘボン式ローマ字を発明したヘボン牧師の流れをくむ本多庸一、植村正久らが輩出し、日本基督教會、組合教会などを創立。これが、現在の日本基督教團へと発展していきました。前号で、「クラーク博士から内村、新渡戸などが直接洗礼を受けた」と書きましたが、これは、クラークが要請したハリス牧師により、クラークが創立した「イエスを信じる者の誓約」の団体の影響の下に、内村ら農学校の二期生が受洗したのであり、直接クラークからではありませんでした(一期生は全員、クラークから受洗しています)。かかるクラークの影響を受けた札幌農学校(現・北

海道大学)の卒業生たちの中から、日本を代表するキリスト者が生まれていったという事は、素晴らしい神さまのみわざであったと思えます。内村が後に、「無教会派」という団体を創設したことは、よく知られています。一高の教師であり、一高・東大の学生をキリスト教に導いた内村の門下からは、東大総長となつた矢内原忠雄、同じく東大総長・南原繁、最高裁長官・文部大臣を務めた田中耕太郎、法学者・三谷隆正らが輩出しています。法曹界、教育界の有能な人材を多々輩出させたことは、内村の人格と信仰の強靱さの賜物と言えましよう。

## 三 田中耕太郎先生のこと

田中耕太郎(一八九〇〜一九七四)は、東大教授から最高裁長官・国際司法裁

判所判事になりましたが、プロテスタントからカトリックに改宗しています。そのいきさつについては、著書「若き日の信仰」「学生の疑問に答える」の中で、語られています。私も、最晩年の田中先生を自宅に訪れ、直接お話をうかがうお恵みの機会をいただいたことがありました。その時、田中先生のおられる場所が分からなかつたので、直接、最高裁判所に電話して教えてもらつたことを懐かしく思い出します。むこうみずな若者の時だつたからこそ、それができたのだと思えます。今なら、裁判所は無名の者に連絡先を教えてはくれないでしょうが、その時、田中先生に会いたい理由を「田中先生のキリスト者としてのお話をお聞きしたいので」と心を込めて説明したところ電話に出られた職員の方が教えてくれたのです。これも、神さまのはからいであつたように思います。

田中先生は、二十代の青年才だった私に「私がこうしてあなたと話しているのも、聖パウロのようにキリストの福音を告げる信徒使徒職の務めを果たしているからです」と語られました。田中先生との出会いは、私とカトリック信仰を強く結びつける神さまからの恵みの時であつたように思うのです。私が質問をすると、時々「ご質問の意味がよく分かりませんが」と答えられ、「さすが、裁判官」と思いました。質問の内容をよくまとめ直して、また、質問し直しました。

お茶とケーキを持ってきてくださった田中先生の奥さま・峰子さんともこの時、お話しさせていただきました。峰子夫人は、田中先生の東大の恩師・法学者で、新憲法制定の時の憲法改正国務大臣を担当された松本蒸治先生の娘さんです。峰子夫人は、田中先生の死後、カルメル会に入会され、数年前、百二歳で亡くなりました。

次号では、内村鑑三の信仰などについてご紹介したいと思います。

会重鎮となられた昭和三十年代には、「蟻の町のマリア」と言われた北原玲子さん(一九一九〜一九五八)、「ゼノ忙しくて死ぬ暇ない」という有名な言葉を残され、人々から愛されたコンベンツアル聖フランシスコ修道会のゼノ修道士のことによく話題に上つていました。

## 文芸

### 俳句

- 鹿児島純心 川上 和
- リンクに立つ震災越えたソチ選手 出水教会 沖 弘子
- 回りくる三陸沖の春の月 鹿見島市 徳永ノブ子
- 西坂の丘の四温や記念ミサ 鹿見島市 徳永ノブ子
- 鐘の音にミサ始まるや浅き春 国分教会 政 ノブ子
- 司教様迎えてミサの余寒かな 純心学園 山頭 信子
- まだ早い水仙生けてミサささぐ

### 短歌

- 鴨池教会 前田 儀子
- 夢に見しキリストの顔ありありと目覚め 津和野なる乙女峠の殉教祭神の愛説く司 教徳びぬ

- て想ふ風寒き朝 教会に慣れたるわれはうからの住める 虚空の寒空仰ぐ 谷山教会 浅地 伶子
- 主にしたいただひたすらに歩みこしこの 歳月の重きを思ふ 大笠利教会 稲 牛憲
- 一人居の自由はすなはち怠惰にて朝食夕 食の時定まらず 鹿見島純心 川上 和
- 三陸の伝統踊り軽やかに希望のきずな舞 台にのせて 徳之島教会 泉 克枝
- パパさまの慈しみと愛いだいて生きて いきたい今日も明日も 出水教会 遠竹 睦郎

## 種

どの家庭でも、限られた収入の中で何にそれを振り分けるか悩みます。賢明な主婦(夫)ならば家計簿を付け、遣り繰り算段されるでしょう。家族のそれぞれの将来を見据えて、今、何を優先し、何を諦めるのか絶えず選択しなければ家計は成り立ちません。

## 教会の家計簿

教会も同様です。宣教師のヴィジョンを見きわめて限られた財源をどのように分配するのかは、とても重要な問題です。厳しい教会財政の中で、どのような遣り繰りをするのか。よい方法をじっくり腰を据えて考えないと、その場凌ぎでは、いづれ破綻することになります。キリスト信者は、教会のために自由に

財産を寄進する権利を有しています。そして教会は、その固有の目的のために必要なものをキリスト信者から徴収する本来の権利を有しています。(教会法第一二六〇・一二六一条) この両者の権利が互いに行使される基本的なものが「教会維持費」です。そしてこれこそが教会の主たる財源です。自由な献金ではありませんが、可処分所得(収入から税金や社会保険料を引いた使い道の自由なお金)の三%を負担の目安として教会は定めています。教会の財政運営を教区全体で支え、教会の家計簿をしっかりと見守ることは、賢明な教区民の大切な使命であることを忘れないうで下さい。(S・B)

## 第37回日本カトリック映画賞受賞作品

# 「隣る人」

4月5日(土)~11日(金) 上映

## カーデنزシネマ

(鹿児島市マルヤガーデンズ7F)

地方の児童養護施設を舞台に、家族の在り方を考えさせる映画。カトリックメディア協議会(SIGNIS JAPAN)顧問司祭の晴佐久昌英神父は、「血縁ではないのに、血縁に恵まれなかった子供たちとただ一緒にいるという真実もあるし、時には疲れることもあるけれど、ともに成長していくチームを撮っている」と評している。互いにぶつかりあうこともあろうし、ときには愛情をもつてどこまでも追い続ける。鑑賞して頂きたい。